

◆ 施設・事業所の概要 ◆

事業種別：有料老人ホーム

職員数：29人

事例 15

ご相談の内容

前任の研修担当者が急に異動になり、新たに研修担当者に任命されました。前任者が作成した年間研修計画に基づき、職場内外での集合研修（OFF-JT）に取り組んでいます。初めてのことばかりで、どのように取り組めばよいのかわからないので、職場研修の基本から教えてください。

また、取り急ぎ、職員から要望を受けているレクリエーションや感染症予防の研修を職場内で実施したいので、講師を紹介してください。



支援の内容

職場研修を進める上での基本的な理解を図るため、職場研修の意義や進め方、研修担当者の役割等について説明を行いました（具体的な説明内容は、「事例1」及び「事例7」の支援の内容を参照）。

当該施設では、毎月一回、介護職によるミーティングを実施し、ケアマネジャーも参加して日頃の業務やケアを振り返り、意見交換を行っているとのことであり、①そうした日常業務の中で、指導的立場の職員や先輩職員が、部下や後輩と接するあらゆる場面が「職場研修（OJT）の機会」となること、②まずは、こうした場面を「職場研修（OJT）の機会」として積極的に活用していく意識を持つことが大切であることをアドバイスしました。

相談者からは、「例えば、これまで文書の回覧だけで行ってきた外部研修の報告を、毎月のミーティングでも報告してもらうことで、自身の学び直しや職場への還元の機会としてもらうことを検討したい」との声が聞かれるなど、職場研修は「研修テーマを年間スケジュール化し、OFF-JTのみで行うもの」との認識から、「人材育成の目標を明らかにし、OJTを中心に意図的・計画的に行うもの」との意識改革につながりました。

なお、講師の紹介については、兵庫県のキャリア形成訪問指導事業（※）をご案内しました。（その後、当施設から、本事業を活用して、レクリエーションや感染症予防等に関する職場内研修を実施する予定とのご連絡をいただきました。）

※ 介護福祉士・看護師等の養成校や職能団体の教員・有資格者が申込のあった福祉・介護職場を訪れ、職員の介護・看護等のスキルアップを図る出前講座を無料で実施する事業です。詳しくは、兵庫県のホームページ（https://web.pref.hyogo.lg.jp/hw17/hw17_000000032.html）をご覧ください。

職場研修アドバイザーからの一言アドバイス

- ミーティングや仕事の打合せ、部下が相談に来たときなど、日常業務におけるあらゆる場面が「職場研修（OJT）の機会」となります。
- 日常業務の様々な場面を「職場研修（OJT）の機会」として捉え、積極的に活用していく意識を持つことが大切です。